様式3

学校番号 71

令和5年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立三池工業高等学校（定時制課程）

自己評価

学校運営計画（4月）

学校運営方針	「地域とともにある学校」～地域産業の発展に貢献できる工業人の育成をめざして～ 一般教養ならびに工業に関する基礎的・基本的な知識と技術の習得を重視し、社会の変化に対応できる能力の育成を目指す。一人ひとりの個性を大切にするとともに、社会的自立の基礎となる学力、体力、豊かな心を培う。また、伝統と文化を尊重し、「知恩感謝」の念を持ち、我が国と郷土を愛する人材の育成を図る

昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	評価（総合）
【成果】 ・クラス経営の指導体制充実による出席状況の改善 ・授業規律の確立による学習意欲の向上 ・組織的な生徒指導による中途退学者の減少 ・学校行事の実施形態の工夫による生徒会活動の活性化 ・第二種電気工事士、パソコン利用技術検定等の試験合格による資格取得の意欲・合格率の向上 【課題】 ・新学習指導要領に対応した教科等横断的な授業の取り組みと3観点評価における指導と評価の一体化 ・ICTを活用した更なる授業改善の推進及び教育DXの実現 ・規範意識向上のため、生徒指導力の向上と組織的対応の充実 ・キャリアパスポートを活用したキャリア教育の定着 ・生徒の多様性に応じた指導・支援のための教育相談の充実 ・資格取得の指導体制の構築と「ものづくり」教育の充実 ・定時制の魅力が伝わる学校ホームページの改善及び地元地域 等への広報活動の充実	1　キャリア教育の充実	地域との連携を強化し、「生徒一人ひとりの多様な進路実現」に向けたカリキュラムを展開することで、就職だけでなく公務員や大学進学等への進路指導体制の充実を図る。多様な生徒の可能性を伸ばす指導を充実させることで、生徒一人ひとりの多様な進路に応じた教育を行う。	A
	2　ものづくりを中心とした「三エブランド化」の推進	「ものづくり」をとおした地域貢献を推進するとともに、「三エならでは」の活動を行う。地域や社会の健全で持続的な発展を担う人材を育成するため、資格取得にチャレンジする。	
	3　授業技術を高め、「人を育てる授業」を展開する	「鍛ほめ福岡メソッド」の実践を推進し、「主体的・対話的で深い学び」に向けた「アクティブ・ラーニング」を行い、探求心の向上を行う。最先端科学技術の進展・グローバル化・産業構造変化等にともない、必要とされる専門知識・技術も変化し、高度化しているため、教師自らが自己研鑽に励み、ICTを用いた授業づくり、実践学習を通じた学習意欲の向上に努める。生徒に「自覚努力」、「自学自習」の精神を育成することで学ぶ意欲、確かな学力の育成を図る。	
	4　ICTを活用した新たな学習スタイルの確立を図る	生徒1人1台端末及び通信ネットワーク等のICT環境を活用し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ることで、生徒一人一人の資質・能力を確実に育成する教育活動及び教育DXの実現を目指す。	
	5　修学支援を迅速に進める	「チーム三エ」として、遅刻や欠席を繰り返す生徒の適切な指導法を協議するとともに関係機関と連携しつつ、生徒情報を職員会議で適宜報告し組織的対応につなげる。また、「知恩感謝」の念を持ち、いじめや暴力のない安心安全な学校づくりに努める。なお、就学と就業の両立を目指して、学校・家庭・職場間の連携を強化する。	
	6　組織的な道徳教育の展開	道徳的実践力を高めるため、人としての在り方・生き方を身に付ける道徳教育を展開する。「凡事徹底」を図り、当たり前のことを当たり前にやるのではなく、当たり前のことを人には真似できないほど一所懸命やる態度を涵養する。	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務部	社会の変化に柔軟に対応できる資質・能力の育成	観点別学習状況の評価を実施し、生徒の学習改善を促進する。	B	B	A	本年度は観点別評価を実施し、公開授業でアクティブ・ラーニングやICTの活用の一例を示した。引き続き、ICTの活用を推進し、生徒の資格取得に関する意識向上に努めたい。
		授業のアクティブ・ラーニングやICTの活用を推進する。	A			
		資格試験の受験者及び合格者を増加させる。	B			
	出席・成績不振による原級留置や中途退学の防止	生徒の学力と学習状況を把握し、基礎学力の向上を図る。	A	A		基礎学力の向上を図るため数学の基礎学力講座を実施した。また、統合型校務支援システムを利用し情報の共有ができた。学級担任や教科担任の活用しやすい資料作りをさらに進めたい。
		統合型校務支援システムを活用し、教職員間で情報を共有する。	A			
		学級担任や教科担当が、授業で活用しやすい資料を作成する。	B			
生徒指導部	生徒の多様性に応じた指導・支援	全職員による毎週の生徒情報交換会や、外部から得られた情報を共有し、生徒を理解するための一助にしていく。	A	A	A	本年度は、毎週の生徒情報交換会に加え、外部から得られた情報等を速やかに職員間で共有していくことができた。今後も生徒が学校外においても健全な生活をおくることができるよう外部講師を活用した生徒指導教室や職員研修のさらなる充実を図るとともに、HRや全校集会等における生徒の規律指導により一層注力する必要がある。
		相談ボックスを設置して生徒に周知を図り、毎日確認を行う。	A			
		定期的に規定と校則の見直しや改善を図り、生徒の実態に即した取り組みを行う。	A			
	安心・安全な学校づくりのための取組	全教職員が学校いじめ防止基本方針を理解し、いじめの未然防止・早期発見のための組織的な対応を行う。	A	A		いじめの未然防止、早期発見のための組織的な取組について、今後も職員間の情報共有や共通意識を持った指導体制を継続していく。また、学校行事については企画、運営を教師主体ではなく、生徒主体で行うことができるように生徒会活動の充実を図る取組を増やしていく。
		生徒会を中心に学校行事の充実を図り、生徒全員が本校定時制の一員としての自覚と誇りを持つことができるような学校づくりに努める。	B			
		学校生活アンケート等を毎月実施し、集計後に教育相談委員会を開き対応する。	A			
進路指導部	キャリア教育の充実と就労支援	進路指導教室に加え、クラス別HRでも進路指導に関する活動を1回以上設けて、職業観を育成する。	B	A	B	就労への意識付けを、1・2学年から取り組む。 また、クラス別HRの年間計画で、履歴書の見方・書き方、職業レディネステスト、適性検査や職業観の育成に関する指導を取り入れる。 さらに、少なくとも一年間に一つ以上は資格取得に積極的にチャレンジするよう促す。
		在校生の就業先を夏季休業中に全教職員で職場訪問する計画を作成し、実施することで雇用の継続と拡大を図る。	A			
		年度内に1つ以上の資格取得に挑戦するよう生徒に働きかけ、前年度の資格試験受験者延べ人数44人以上の出願者を目指す。	A			
	卒業予定者の就職・進学の進路実現を図る指導体制の改善	面接対策指導の充実に加え、生徒が応募期限間近に履歴書を作成することがないよう、学年団と進路指導部で指導する。	B	B		面接指導については、特に機械・電気科教員の協力も得ながら、7月から9月上旬にかけて取り組む。 また、進学希望の卒業予定者には、本年度と同様に積極的にオープンキャンパスに参加するよう促す。 さらに、就職指導と進学指導の分業を図るとともに、就職の応募書類や進学の出願書類の点検を複数の教員で行う。
		企業からの来客対応者と求人票整理担当者の分業を図る。	B			
		就職指導担当者と進学指導担当者の分業を図る。	B			
保健食育部	生徒一人ひとりの心身を守り、安心・安全な学校生活を送れる環境を作る	個々の生徒の課題の対応について、クラス担任およびスクールカウンセラー等と連携して方向性を確認し、支援をしていく。また、関係機関との連携を図る。	B	B	B	新型コロナウイルスやインフルエンザの流行は止まらず再発しているので、手洗い、うがいなどの指導を継続して行う。また、日々の健康観察システムを再検討し効果的に活用する。さらに、スクールカウンセラー等との連携については今後も継続して関係機関と連携を図っていく。
		登校前にスマートフォンでの健康チェックを行う。	C			
		教室等のこまめな換気、消毒を行い感染予防に努める。	A			
	食育の推進を図り、生徒の偏った栄養摂取、朝食欠食などの食生活の乱れについて改善を促す	学校給食を通して、望ましい生活習慣を身に付けさせていく。	B	B		毎月19日に実施している生徒のリクエストメニューは生徒たちに大好評であるが、喫食者の増加にはつなげることができていない。そのため次年度は三工定農園を活用して「地産地消」を学び、自然の恵みに感謝する心を育む活動を増やしていく。
		生徒のリクエストメニュー活動を実施し、食への関心を高める。	A			
		三工定農園で作物を育て、収穫を行うことで自然の恵みや勤労の大切さを学ぶ。	B			

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は
A	A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	前年度に引き続き、学習の評価方法に観点別学状況評の評価を実施している。その定着が図られてきていることもあり、生徒は「知識・技能」のみならず、「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」も重要に感じ、主体的に授業に参加していたようである。また、ICTを活用した授業を積極的に行うことで、「個別最適な学び」が実現できているので、次年度は情報の共有を生かし「協働的な学び」の実現に向けた授業をしていただきたい。 次年度に向けた課題設定も的確であり、適切な評価である。
A	新型コロナウイルス感染症も2類から5類に引き下げられ、コロナ禍による制約がかかっていた学校行事も新しい様式で実施ができたことは、学校の並々ならぬ努力があったのではないかと推察する。そして、感染予防対策を十分に行い生徒が学べる場を設定したにもかかわらず、生徒の規律指導に注力したことは評価できる。 また、いじめの未然防止、早期発見のための組織的な取り組みができており適切に対応ができている。 次年度の課題も的確に把握が出来ており、学校の評価は妥当である。
B	進路指導教室では、適切な時期に就職・進学に関わる外部講師を招いて実施したり、HRで進路に関わる活動を実施したりして、卒業生の進路決定を円滑に進めることができている。また、その背景には夏季休業中において、進路課外をしたことは今までしたことがない取組であるため続けていただきたい。しかし、一部の職員に負担があるようなので、次年度はその改善に努めていただきたい。 また、工業の特色ある取組の一つである資格取得を積極的に挑戦している生徒が増えてきていることは評価ができる。 次年度の課題も的確に把握ができており、学校の評価は妥当である。
B	新型コロナウイルスをはじめとする感染症の予防対策を継続して取り組んでいる。本年度は生徒昇降口での健康チェックを毎日行っているが、次年度はICTを活用した健康観察システムの構築をし、それを活用しての取り組みをしていただきたい。 生徒からリクエストメニューをだしてもらい給食献立を工夫していただく等、給食活性化へ向けた取組はできているので、それに加えて喫食者の増加につながる取組としていただきたい。 次年度に向けた課題設定も的確であり、適切な評価である。

企画情報部 （教育情報推進課含む）	学校行事に関する連絡と集約、各分掌へ適切な調整及び支援を行うとともに、教職員のスキル向上のための効果的な研修を実施する	行事の実施案を早期に提示し、調整に時間的な余裕を持たせる。	B	A	A	今年度はPTA役員会等で早期に協力を要請したこともあり、保護者と連携しながら多くの学校行事が実施することができた。また、昨年度よりもMTSやホームページを活用したことで、生徒だけでなく保護者の参加率が向上したことから、次年度も継続して実施する。	A	定期的にPTA新聞（MTS）の発行や学校ホームページの更新を行い、保護者等に対して適切な情報発信に努めていただき、学校行事に対する保護者の参加率が向上したので、有意義なものになっている。 また、定時制独自の工業科におけるOJT教育やICT活用等の研修を数多く実施したことは素晴らしい。 次年度に向けた課題設定も的確であり、適切な評価である。
		本校の教育課題に応じた研修会を年6回実施する。（広報活動、人権教育、いじめ防止、教科等）	A					
		学校行事に保護者が多数参加していただけるように、早期の広報活動を徹底する。	A					
	ネットワークの安定運用とICTを活用した効果的な授業の推進を図る	学校行事の種々の場面でICT機器の活用を推進する。	A	A		今年度の職員研修では、定時制独自で工業科におけるOJT教育やICT活用等の研修を計8回実施した。これは各職員の授業内におけるICT活用や横断的指導効果があったと考えられることから、次年度も継続して実施する。		
		ICTを活用した新たな学習スタイルの確立を図るため、校務や授業へのICT活用の研修や支援を行う。	A					
		システムの維持管理・セキュリティ対策など関係部門と連携してシステムの安全・安心な維持を図る。	A					
機械・電気科	ものづくり教育の充実（教職員、生徒ともに専門性を高める）	専門科目および実習における観点別学習状況の評価を定着させ、生徒が目標を持って主体的に授業に臨めるようにする。	B	B	A	今年度は、実習内容の精選を図りながら、安全教育を徹底させるために、実験・実習における安全指導ガイドラインをはじめ、実験・実習マニュアルを作成した。全職員で基本的なところから指導することができた。次年度も安全で効果的な実習ができるように実習室の整備と実習内容を段階的に習得ができるように計画していく。	A	実習服等の正しい着用や機器及び工具の正確な取り扱い方を指導して、徹底した安全教育を実施している。特に、本年度は実験・実習における安全指導ガイドラインをはじめ、実験実習マニュアルを作成し、各実習室に配置できたことは評価できる。 また、定時制ではしていなかったものづくり教室や工業の技術を継承するために教員研修を行ったことは大変素晴らしいことである。 次年度に向けた課題設定も的確であり、適切な評価である。
		実習内容を精選し、その目的を明示して、学力の向上に繋げる。	A					
		必要とされる資格を精選することで、計画的な資格取得を支援する。	B					
	生徒および保護者の機械・電気科満足度100%を達成する	ものづくり教室等を積極的に行い、小・中学生への広報活動の充実に努める。	A	A		今年度は、全日制課程と共同してものづくり教室を実施したり、教科の得意分野をもつ教員が、長期休業期間を利用して他の教員に指導をしたりと、教科指導力を向上させるための教員研修を行うことができた。次年度も継続して実施する。		
		生徒一人ひとりに寄り添った教科指導、生徒指導に全教職員で取り組み、卒業後も活躍できる生徒の育成に努める。	B					
		教職員間で工業に関する技術・技能の継承を行う。	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・観点別学状況評の評価の充実（ルーブリックの作成）とICTを活用した授業の定着を図る。
・学校行事の内容を見直し、生徒が主体的に企画・運営に参画し、所属感や連帯感を深めることができるような生徒会活動の充実を図る。
・生徒の進路に対する意識向上を図るため、キャリアパスポート等を計画的・系統的に活用するとともに、関係機関との連携強化を行いキャリア教育の充実に努める。
・長期欠席者や中途退学者を減らすため、計画的なSCの運用、または状況次第ではSSWに繋ぐ。また、関係行政機関等との連携強化も図る。
・4年間を見据えた人権・同和教育の計画や授業実施の学習のねらいを明確化していく。また、授業以外の部分においても人権の在り方について、考えを深めさせる。

評価項目以外のものに関する意見

・全国大会出場を目指す等、高い目標を掲げて部活動を行って欲しい。
・「知恩感謝」を心掛け、生徒の育成に努めて欲しい。
・風紀の乱れを持つ生徒を正していただきたい。